



湾岸・アラビア半島地域ニュース

サウジアラビア：第103回GCC外相会合

(7月6日付「リヤド」紙)

7月5日、リヤドにて開催された第103回GCC外相会合の終了後のサ우드・サウジアラビア外相による記者会見。

1. (「米国がイラン攻撃に踏み切った場合、湾岸諸国がイランが反撃する最初のポイントになるうとのイラン外相の発言をどう思うか」との問いに対し)
GCCは核兵器拡散防止条約を尊重すると共に、人々は核エネルギー所有の権利を持つことを呼び掛ける旨を確認した。GCCは、イランの核危機が平和裏に解決されることを希望する。イラン外相の声明内容は、実際のところ聞いておらず、誰が発表したのかも知らないが、もしも正しいのならば、それは失言であろう。
2. (ムーサ・アラブ連盟事務総長が8日にサウジとシリアを訪問することに関し)
本訪問は、レバノン問題の解決、又はシリア・レバノン両国間の意見調整の枠組みにおいて行われるものである。同事務総長は、常にアラブ諸国と協議を行っており、特に奇異なことではない。8日の訪問の具体的目的は承知していない。
3. (イエメンの反政府勢力問題の解決に対するカタルのイニシアティブについて)
カタルは、仲介について議題提起を行わなかった。
4. (リヤドで開催されたGCC国防相・外相合同会合による湾岸軍の編成に関し、同軍はアラビア半島の盾軍とは別組織なのかと問われ)
同会議は、アラブ首脳会議の指示により開催されたもので、報告書は決定権を持つ首脳陣にあげられる。
5. (イラク駐留米軍が使用している劣化ウラン弾による放射能汚染への防止対策や、イランのブシェール原子力発電所からの放射能漏れの可能性について問われ)
環境汚染、湾岸諸国民の健康を害するものは全て、本会議及び首脳会議の関心事である。湾岸戦争で用いられた兵器や、その他の脅威に関わる影響について、関連情報の交換を行っており、効果的な予防、現状の改善措置をとっている。又、湾岸諸国間では、ハイレベルでの継続的調整を行っている。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799